

2017 年度聖書の集い（第 5 回）

2017 年 10 月 11 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 506 番 「主は命を」
- 2、お祈り
- 3、聖書 マルコによる福音書 12 章 28 節～34 節
(新約聖書 87 ページ)

4、今日の内容

キリスト教のおまつり「⑤ バザー」

今月は「バザー」についてお話しします。バザーは、教会や学校などの資金調達のためにおこなわれてきたのがはじまりと言われています。それぞれ家庭から不用品（自分の家では使わない物）を持ち寄り、必要な人がそれを購入して、その代金で設備を拡充するのです。

例えば桃山幼稚園の応接室（現在の事務室）の建築費用は、1957 年の幼稚園のバザーで一部捻出したという記録が残っています。

① 寄付をするということ

たまに街角で、寄付をお願いする団体に出会うことがあります。震災復興支援や海外での心臓移植を目指す子どものため、また盲導犬の育成を助けるため、などなど。みなさんはそのような団体を見かけたら、どうされますか。

わたしの妻は、平安女学院中高のボランティア部の顧問をしています。先日、九州地方を豪雨が襲い、河川が氾濫して多大な被害を与えました。そのときに街頭に立って募金活動をしたそうです。平安女学院は京都府庁の近くにあるため、募金を呼び掛ける生徒たちの前をひっきりなしに人は通ります。しかし残念ながら、ほとんどの人は目も合わさずに、通り過ぎてしまうそうです。

しかしこれは、ケチだからということではないと思います。恥ずかしいから、うさん臭いから、そしてそのような習慣の中で育ってこなかったから、いろいろな理由でなかなか募金箱に手を伸ばすことができない、そのような方も多いのではないのでしょうか。



② お互いに助け合って生きていくということ

その反面、欧米諸国では「寄付」という行為は、当たり前のようにおこなわれています。税金対策という理由もありますが、それよりも自分が得た財産は、「神さまに与えられた」ものであり、それを分かち合うのは当然だという考えが根底にあるからです。

社会には、お金持ちは神さまに祝福され、貧乏な人や病気の人などは何か悪いことをした罰でそうなったのだと考えられていました。日本にも因果応報という言葉があります。しかしイエス様は、それを否定します。すべての人を神さまは愛し、大切にしている。だからわたしたちはお互いに、助け合いながら生きていかなければならないと言われたのです。

その結果、キリスト教を母体とした孤児院や福祉施設、またハンセン病患者のための療養施設など、社会的に弱い立場に追いやられている人たちとともに生きる施設がつくられています。

③ バザーとは

バザーの話に戻りたいと思います。来る 11 月 5 日に「オリーブまつり (バザー)」が開催されます。今回の目的は「九州地方災害被災者支援」です。災害に遭い、今もつらい立場にいる人たちをおぼえ、今自分たちにできることを考えていこうと思っています。

現地に行って泥かきをし、直接義援金を送るだけが支援ではありません。わたしたちだからこそ出来ることも、たくさんあるはずです。お祈りをする。今の状況を子どもたちと一緒に考える。九州のことを思いながら、楽しく買い物や食事をする中で、その収益が有効に使われる。わたしたちが与えられた多くのものの一部を、今必要な人のために用いてもらう。毎週の献金も同じです。その目的を子どもたちと分かち合いながら、どうぞ参加してください。

さらに今回、喫茶コーナーのケーキやクッキーもぜひ買っていただけたらと思います。丹波橋に「京都ふれあい工房」という作業所があり、そこで作っているお菓子を販売します。この地域で、いろんな人と共に生きる。そのことに気づかされるのも、バザーの大きな意義ではないでしょうか。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から